

留学先国名 : アメリカ

留学先学校名 : The University of New Mexico

留学期間 : 平成 28 年 8 月 13 日 ~ 平成 29 年 5 月 16 日

この報告書では、まず初めに留学中の生活について述べる。次に、留学中の成果とそれを今後どう活かすのかを記す。最後にこれから留学する人へのアドバイスを記載する。

留学中の生活は、授業についていくことに必死であった。最初のセメスターは、幅広い知識や教養を身につけるために、専攻である経済学以外の科目を中心に履修した。経済学以外のアメリカ色の強い授業は、かなり難しかった。例えば、Sociology の授業では社会学の経済、政治、人種などの基礎知識だけでなく、Black Lives Matter (以下、BLM) という、近年、アメリカで取り上げられる黒人の人権問題も学習した。社会学の範囲が幅広いため、かなり多くの社会学用語を理解することは大変であった。さらに、BLM などのアメリカ特有の問題を理解することは特に難しかった。BLM を議論する機会があったが、アメリカ人ではないため、議論についていくのが大変だった。アメリカ、特にニューメキシコ州には、日常的に白人以外のヒスパニックや移民などの多様な人が住んでいる。一方、日本には、ほとんどが日本人で移民や移民 2 世が少ない。そのため、日本人の私とアメリカ人との間に人種の意識が大きく異なると私は感じた。BLM の新聞記事を読むことでその問題を理解しようとした。このことは、BLM を理解することに有用だったと思う。このように、アメリカ文化に基づく問題を理解することが留学生活ではかなり大変だった。

留学中の成果は三つある。一つ目は、異文化理解は目に見えない部分が大事であるということを実感したことだ。私は、異文化理解は食事や生活の風習などの表面的なことを理解する能力が大部分だと考えていた。例えば、アメリカのトイレは扉の下部があいていることなどである。また、留学前に韓国に三週間滞在した経験があり、韓国は文化的に似ていると感じていた。そのため、アメリカも大きく文化的に違わないのではないかと考えていた。しかし、留学してみると、これらの考えは間違っていた。アメリカでは細かい部分が異なっていることが多かった。例えば、アメリカには先輩という概念がなかった。そのため、相手の年齢を気にする必要は少なく、様々な人と気楽に話すことができた。一方で、日本で暮らしているときには相手の年齢や先輩かどうかを気にしていたので、留学初期はアメリカでもそのことを気にしてしまった。また、パーティーゲームで大喜利のようなゲームをしたときにも文化的な違いを感じた。そのゲームではお題が出されて、参加者が回答し、投票によって一番面白い回答を選ぶというゲームであった。その際に一番選ばれた回答が私にとっては面白いものではなかった。このように、留学生活を通じて、アメリカと日本では、食事や住居などの他に、話題や言葉の概念なども異なることを学ぶことができた。

二つ目は、アメリカで経済学系の授業を取ることで、アメリカの税と社会保障制度や計量経済学をしっかりと学べたことである。基本的に立命館大学の授業は週一回 90 分授業が 15 週行われる。一方で、派遣先の大学では、75 分の授業が週 2 回、または 50 分の授業が週 3 回あった。授業時間が短いことでしっかりと集中して授業を受けることができた。また、週に複数回授業があることで集中的に同じ科目を

学習することができ、効率的であった。例えば、計量経済学は週3回授業があり、Excelを利用した演習が充実していた。また、ティーチングアシスタントによる復習授業が行われた。その結果、日本で計量経済学の授業を学ぶよりも密度が濃く学べたと思う。また、財政学の授業では、アメリカの租税制度や社会保障制度を学ぶことができた。特に興味深かったのはアメリカの保険制度である。アメリカの保険制度は、基本的に国が保険を提供していないため、個人が任意で加入する。保険費用に応じて、保険サービスも大きく異なる。私は日本の保険制度と大きく異なることに驚き、とても興味深い授業であった。このようにして、アメリカの経済学の授業を取ることで、アメリカの税と社会保障制度を学ぶだけでなく、計量経済学をしっかり学ぶことができた。

三つ目は、留学を通して英語力を伸ばせたことだ。留学当初は授業についていくことで精一杯だった。2か月、3か月過ごすうちに授業の英語を聞き取ることができ、英語力の向上を感じた。また、友人との会話の中で、最初は私が話したいことをうまく表現できず、もどかしい思いを経験した。そこで単語や熟語表現を覚えなおすとともに which や who を使い、語彙力の不足をカバーして話すことを心掛けた。その結果、日常生活レベルでは、問題なく会話することができるようになった。

今後、さらに経済学を学ぶことでこれらの成果を活かしていきたいと考えている。特に、留学で学んだ計量経済学をデータ分析できるようになりたいと考えている。日本で似たような授業を取った時には、Excelなどのデータ分析ソフトを使わず、理論を学ぶだけであった。そのため、実際にソフトを使ってデータ分析した経験はとても貴重だったと思う。また、現在、日本ではデータサイエンティストの重要度が高まっている。データサイエンティストとは、膨大なデータを統計学やプログラミングを用いて、分析する人である。私は、将来的にデータ分析を学ぶために大学院に行くことを考えている。その際には、英語力を向上させ、海外の大学院でデータ分析を学びたいと考えている。そして、データ分析を用いて、より正確な報道ができるジャーナリストになりたい。

これから留学する人へのアドバイスは二つある。一つ目は、英語力を可能な限り勉強してから留学することである。私は交換留学の語学要件は満たしていたが、授業の英語や日常会話についていくことが留学当初は難しかった。また、語彙力も十分ではなかったために、授業の予習や復習に多くの時間を費やすことになった。これから留学する人には特に英単語や熟語を多く覚えて、留学生活に円滑に慣れやすくすることを勧めます。二つ目は、事前に受講したい授業にプレリクワイアメントがあるかを確認することだ。基本的に留学先の授業は特に要件なしで受講できる。一方で、主に3年生以上向けの授業を受講するにはプレリクワイアメント（先行履修が求められる科目）が必要になることがある。そのため、留学する前に日本でプレリクワイアメントにあたる授業を取ることをお勧めします。例えば、留学先で経済学系の授業を受講するときには中級ミクロ経済学、中級マクロ経済学や統計学入門を受講することです。3年生以上向けの授業ではこれらの授業がプレリクワイアメントになっていました。プレリクワイアメントをあらかじめ調べて、留学先で希望の授業を受講できるようにすることが大事です。